

水稻新品種「ベニロマン」について

八木忠之・深浦壮一・平林秀介・福岡律子・西山 壽・山下 浩
本村弘美・滝田 正・齋藤 薫 (九州農業試験場)

Tadashi YAGI, Souichi FUKAURA, Hideyuki HIRABAYASHI, Ritsuko FUKUOKA, Hisashi NISHIYAMA, Hiroshi YAMASHITA, Hiromi MOTOMURA, Tadashi TAKITA and Kaoru SAITOH : A New Rice Cultivar "Beni roman"

水稻新品種「ベニロマン」は1997年8月命名登録された。ここに本品種の育成経過並びに特性概要を報告し、普及の参考に供したい。本品種の育成に関し、種々高配をあげた関係各機関各位に深く謝意を表す。

1. 来歴および育成経過

本品種は、強稈・赤米品種の育成を目標に、1987年9月晩生・強稈の「南海97号」を母に、赤米の在来種「対馬赤米」を父に人工交配を行った組合せに由来する。1988年1月F₁を温室内で養成し、F₂、F₃を温室で養成、F₄で個体選抜、以後系統育種法により選抜固定を重ねてきた。1993年F₅より「西海209号」の地方系統名を付し、関係県に配付して地方適応性を検討してきた。1995年に種苗法による種苗登録の申請を済ませ、翌96年8月に「ベニロマン」として命名登録された。1997年度でF₁₂である。

2. 特性の概要

1) 形態的特徴

「レイホウ」に比較し稈長は4cm短く、穂長はやや長く、穂数はやや少ないやや短稈中間型である。止葉はやや立つが下葉の枯れ上がりが多く、草姿、熟色はあまり良くない。粒着密度は中、芒は多くて長く、ふ先色・芒色は赤褐、穎色は赤褐～褐、脱粒性は中である。

2) 生態的特徴

「レイホウ」より出穂期で3日、成熟期で2日遅い暖地では晩生の早に属する梗種である。耐倒伏性は「レイホウ」より弱い中で、収量性は「レイホウ」に劣る。穂発芽性は、「ニシホマレ」・「レイホウ」より難で、「ヒノヒカリ」・「ユメヒカリ」より易の中位である。

いもち病抵抗性は+と推測され、葉いもち圃場抵抗性は「あそみのり」よりやや弱く、「日本晴」よりやや強い中である。白葉枯病圃場抵抗性は「シンレイ」よりやや弱く「十石」より強い弱である。縞葉枯病には罹病性である。

3) 品質・食味特性

千粒重は「レイホウ」より小さい21.0g、粒大はやや小、粒形はやや円である。

赤米で腹白が多く品質はやや不良、食味も不良であるが、食品の着色料、化粧品の色素原料等として活用しうると考えられる。

3. 栽培上の注意

1) 晩生のため、適地を選定するとともに晩植は避ける。

2) 赤米は通常の品種と混ざると、検査等級を下げる

などの問題がある。種子の管理は徹底して行う。

3) 葉いもち・穂いもちの圃場抵抗性は中であるため、基幹防除を行う。

特性一覧表

系統名・品種名	ベニロマン	レイホウ
早晚性	晩生の早	晩生の早
草型	中間型	偏穂数型
出穂期 (月・日)	9.6	9.3
成熟期 (月・日)	11.1	10.30
稈長 (cm)	81	85
穂長 (cm)	21.6	19.9
穂数 (本/m ²)	388	405
倒伏の多少	2.8	1.6
芒の多少・長短	多・やや長	稀・短
ふ先色	赤褐	黄白
ふ色	赤褐～褐	黄白
脱粒性	中	やや易
穂発芽性	中	易
耐病性		
葉いもち (遺伝子)	中	やや弱
穂いもち	+	Pl-a, ta ²
白葉枯病	中	やや弱
縞葉枯病	弱	中
罹病性	罹病性	罹病性
玄米重 (kg/a)	47.0	59.6
同上標準比率 (%)	79	(100)
玄米千粒重 (g)	21.0	23.1
玄米品質	5.7	5.8
食味	下下	中上